



## つながりを大切に ～「思いやりから始まる平和」～

校長 松崎 由里子

(前略) …私はウクライナの人々を支援したいと考えました。しかし、お金や物での支援は子どもには難しいと思います。だからといって支援ができないわけではないはず。戦争の被害にあった人たちは、体だけでなく、心にも傷を負っています。彼らを支援する方法として、物だけでなく、心の傷を癒すことも、その一つだと思います。… (後略)



7月21日。令和4年度よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト本選会が、南公会堂で行われました。各区と私立学校代表児童19名によるスピーチ。本校

6年3組の萩尾友香さんが、戸塚区の代表として参加しました。ポーランドで知り合ったウクライナ人の友達の現状を知り、自分に何ができるのか考えた萩尾さん。「自分だったら」ゲームをするとリラックスできる。ゲームを通してその友達と「つながる」ことで、少しでも心の傷をいやすことができるのではないかと…そこで実際に行動に移した萩尾さんの主張は、心のこもった語り口で、会場に響きました。

「思いやりから始まる平和」というスピーチの表題も素敵です。「想」という漢字は、「相」と「心」でできています。「相」手を「心」から想うこと、そして、相手の気持ちを想像することで、人との温かなかかわり、つながりが生まれ、それが世界に広がり、平和を実現することにつながるのではないかと…そんなことを感じました。6年生の心から発せられたメッセージに刺激を受け、国際平和のために自分ができること、自分がしたいことは何か、日々考えています。

萩尾さんは、横浜市長から、令和4年度のよこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員に委嘱されました。各区・私立学校代表の実行委員の仲間とともに、よこはま子どもピースメッセージを作成したり、平和募金呼びかけ動画を作成したりする活動に取り組みます。取り組んだ成果を、学校にも発信してくれることを期待しています。



さて、この夏休みには、計画されていた多くのお祭りが残念ながら中止となりました。地域の皆様のご心痛をお察し申し上げます。そんな中、縮小という形ではありましたが、しらゆり公園の納涼盆踊りと、鳥が丘第一公園の夏祭りが開催され、本校職員とともに3年ぶりに参加しました。開催に当たっては、全員の検温、アルコール消毒など、感染症対策が施され、ご苦労も多かったのではと思います。

鳥が丘の夏祭りでは、子どもたちも参加しての和太鼓やソーラン節が見事でした。「今年何とかして開催したい。この伝統をつないでいきたい。」そんな熱い思いが伝わりました。まだまだ終わりの見えないコロナ禍ではありますが、地域との「つながり」、それが平和にもつながっていくことを信じ、そのつながりをより一層大切にして夏休

み明けの教育活動に取り組んでいきます。